

3年1組

 トカラヤギのトカちゃん一家との3年目の暮らし  
 ～4匹の赤ちゃんの誕生。3匹の雄ヤギとの別れ～


11月30日、トカちゃんをお借りしている佐久市の牧場に全員で行き、以前から会いたかったFさんと直接お話をさせていただくことができた子どもたち。

2年前にトカちゃんをお借りした時の約束では、トカちゃん、トット、ララの3匹は来春にこの牧場に戻るようになっていました。ですが、家畜として生きる「ヤギの本当」に触れていく中で、子どもたちの中には、「家族を作れない雄ヤギのトットが、家畜として人の役に立っていく道は本当はないのか」「トットにはトカちゃんたち以上に少しでも長生きをしてほしい」という願いが生まれてきました。そして、「去勢されていてもいいから『トットが欲しい』『トットとくらしたい』と言ってくれる先を自分たちで見つきたい」という願いも強くなっていきました。

ただ、その考えは、2年前のFさんとの約束を反故にすることになるため、子どもたちの中には本当にそんなことを伝えていいのかという迷いもありました。ですが、「トットの去勢を決めたのは＝トットの未来を狭めてしまったのは自分たちのせいだから」と、心を決めてFさんに自分たちの正直な思いを伝えさせてもらいました。

すると、Fさんからは「雄ヤギが足りている今の段階で、スエトシ牧場に去勢の雄ヤギが戻ってきたとしたら100%お肉になります」というお話がありました。お肉になる可能性があるという事はもともとお聞きしていたものの、実際にその事実を自分たちの目の前でFさんからお聞きした時の衝撃は大きかったです。ですが、Fさんは「育ててきたヤギを大切にしたいというみんなの気持ちも分かるので、自分たちで責任を持って、行き先探しを頑張っただけ。でも、もし行き先が決まらなかったとしても、お肉になることがあったとしても、それはみんなが悪いわけじゃないんだよ。それがヤギが家畜として生きるってことなんだよ」という言葉も付け加えていただきました。Fさんのお話に真剣に耳を傾け、黙々とメモを取り続ける子どもたちでした。

全体でお話をお聞きした後、しばらく牧場でくらすヤギや他の動物たちの様子を見せてもらった子どもたち。ですが、その時間も子どもたちからFさんへの質問は続いていきました。「育ててきた動物とお別れをする時って、どんな気持ちになるんですか?」「育てた動物がお肉になっちゃう時って、悲しかったり、嫌だなんて思わないんですか?」など、それをお聞きしたら失礼かなと冷や冷やするような質問もあったのですが、そんな質問に対してもFさんは一つ一つ丁寧に答えてくださり、子どもたちは納得し、トカちゃんたちが帰っていくこの牧場の環境、またFさんの人柄に安心しながら見学を終えていきました。

帰り際、「子どもたちの本気がいいですね」というFさんから頂いた言葉。こうして子どもたちを本気にさせてくれる、たくさん学びをもたらしてくれるトットやトカちゃんたちに対して感謝の思いが浮かびました。お別れに向かう残り3か月の日々の中で子どもたちが何を学んでいくのか、トカちゃんたちとくらししてきた3年間で、子どもたち一人一人にとってどんな意味を持っていくのか、最後まで見つめていきたいと思っています。

